全日本宗教用具協同組合
発行所 全日本宗教用具協同組合　〒101-0048 東京都千代田区神田司町二丁目16番7号 第二小林ビル2階　TEL.03-6206-0413 FAX.03-6206-0414 http://www.zenshukyo.or.jp/

全宗協 ぜんしゅうきょう

2012 12月 December
通巻72号

全国研修会特集

平成24年度全国研修会を京都で開催!!

平成24年10月3日(水)・4日(木)、京都にて全国研修会が開催されました。参加者は119名。

今回は「業界に維新を!～宗教用具がかかえる問題点とその解決策」をテーマに、一日目は5名の講師による4つの講演、二日目は公正競争規約についての説明、ニューリーダー部によるディベート、その後幕末維新ミュージアム「霊山博物館見学」をするという内容で研修会を行いました。

司会は第4講座で講師も務めていただいたイシトヤチグサ氏。吉田光宏総務委員長のご挨拶と今回の主旨説明で全国研修会が幕を開けました。

吉田総務委員長のご挨拶

今回の研修会のテーマは「業界に維新を!」です。維新という言葉は中国の古い書物「詩経」にある「周は旧邦なりといえども、その命維新(これあらた)なり」という言葉がその出典だそうです。周は古い伝統ある国ですが、その働きは日々に新たで止まるところがなく、これが周の発展につながったという意味であり、ここから「維新」という言葉が生まれたのです。

吉田光宏総務委員長

「維新」という言葉に対し、「革命」という言葉があります。革命というのは命が革まる(あらたまる)ということです。中国において皇帝というのは民を治めるよう天から命じられた人であると考えられていました。しかし、現皇帝では民を治めることができないと天が判断した時には、天は新たな人物に民を治めることを命じます。これが命が革まる、即ち革命です。日本の明治維新は国体を維持しながら変革を遂げたものであり、その為「革命」と呼ばず「維新」と呼ぶのだそうです。

この「周は旧邦なりといえども…」という言葉は「大学」という書物にも書かれています。「大学」では「詩経」にはこう書いてあると述べられているのですが、その後、「湯(とう)の盤の銘に曰く苟(まこと)に日に新たに、日日に新たに、また日に新たなり」という言葉が続きます。周の前の王朝である殷王朝の初代湯王は、盤(今でいう洗面器のようなもの)にこの言葉を刻んでいたそうです。今日も新たになろう、次の日もまた新たになろう、そういう気持ちで朝を迎え、日々の業務にあたったとのことです。物事が発展していく為には、このように常に新たなものを創造していくという姿勢が大切なのです。

研修会の様子

私たちの業界も非常に古い、伝統ある業界です。しかし、その働きが日々新たなものでないと、今後の発展は望めないのではないでしょうか。今の厳しい時代には、新たなものを創り出そうという気概が必要なのではないでしょうか。このように感じまして、「業界に維新を!」を今回の研修会のテーマとさせていただきました。

今日は様々な先生から色々なお話が聞けることと存じます。今日のお話が皆様の「維新」のきっかけになれば幸いでございます。

会場のメルパルク京都

【目　次】

P1	24年度全国研修会開催	
P2	研修会特集	ご講演 「維新に学べ」 「絵本に学ぶコミュニケーション術」 「7:3の法則～業界が変わるとき」 「生活様式がもつ力」
P3		
P4		
P5		公正競争規約について
P6		ニューリーダー部ディベート
P7	ニューリーダー部 比叡山研修報告	
P8	霊山歴史館見学、懇親会、仏事コーディネーター試験合格者一覧、事務局からのお知らせ	

ご講演

業界に維新を！

第一講

木村幸比古氏

「維新に学べ」

木村幸比古氏 プロフィール

幕末維新ミュージアム霊山歴史館学芸課長。幕末維新史研究の第一人者。

平成17年7月から高知県観光特使に任命されている。

著書に『龍馬語録』(PHP)、『新選組日記』(PHP新書)、『龍馬暗殺の謎』(PHP新書)、『幕末維新　珠玉の一言』(淡交社)、『土方歳三』(学研M文庫)ほか多数。

木村幸比古先生は、ご自身が携わったことのある大河ドラマ「龍馬伝」、高知の産業、ネット社会や近代化、江戸時代の士農工商、武士道精神、寺子屋や藩、その後の大学の事など幅広い様々なお話をしていただき、それを踏まえて「維新」についてのお話をしていただきました。

幕末、長崎油屋町の大浦慶は女傑で知られていました。彼女はオランダ語を学び、出島で商売をしました。彼女がヨーロッパの人は日本の商品で一番欲しいものはなんですかと尋ねると、即座に「お茶」という答えが返ってきたそうです。それを聞いたお慶さんは、長崎という異文化の町で最高のお茶を扱うことを考え、筑前八女茶、肥前嬉野茶を厳選し、極上品を上、中、下と分け袋詰めし「日本・長崎・大浦慶」とローマ字で印刷し、商館を通じてイギリス・アメリカ・アラビアに輸出しました。

安政6年6月2日、横浜・函館の開港が決まると長崎は管理統制貿易の緩和策で自由貿易港になり、オールトというイギリス商人と取引をしてお慶さんは巨額の富を得ました。お慶さんの経営はあくまで極上品を求め、お茶の品質向上や九州の雇用創生に繋がるものでした。

幕末にいた鉄砲鍛冶は維新後どうなったのでしょうか。多くは花火職人や鍛冶屋に転身したり、農機具を作ったりしましたが、堺の鉄砲鍛冶は自転車産業へと活路を見出しました。今では堺といえば自転車のメッカとなっています。自転車部品のシマノや、ミヤタ自転車の宮田工業には、鉄砲鍛冶の技術が生かされているのです。

幕軍が敗れた理由の一つに、鉄砲、洋式銃などの兵器に対する考え方の違いがあったのではないかと思います。会津などの旧藩では、サムライが飛び道具を使うことは卑怯だという考えが根強くありました。刀と槍で戦うのがサムライであると。その為新撰組も敗れてしまったのですが、後に土方歳三は、「もう刀や槍の時代は終わった。これからは洋服を着て鉄砲の時代だ。」と書いています。

幕末の戦火の中で生き残った人はどういう人であったのか。不思議なもので強い者が生き残るという事ではないのです。どういう人が生き残るかというと、生きたいという願望が強い者。そのような精神構成の人は絶対に生き残る。何が何でも生き残りたいという意識が、人間を向上させます。日本人にはそういうDNAがあると思うのです。そういう意識の中で改革、刷新する気持ちが芽生えたら、それが本物になっていくのではないかと思います。

❖

第二講

岡田達信氏

「絵本に学ぶコミュニケーション術」

岡田達信氏 プロフィール

自己啓発、心理学などを部下の育成、社内研修などに取り入れ、子供が生まれたのをきっかけに集めていた絵本と自己啓発、心理学に学ぶ内容の共通点を発見し、絵本をプログラムとして絵本セラピーを考案されました。

絵本のソムリエ、日本メンタルヘルス協会公認心理カウンセラー、一級建築士でもあります。

実際に絵本を読み、参加型の講習会。一冊目は「まめうしくんとこんにちは」

コミュニケーションの基本である挨拶、

その仕方も言い方によってずいぶん印象が変わるというもので、会場のみなさんで大きな声で挨拶をしました。みなさんの表情や声の調子が明るくなったところで、営業世界の3秒3分30分ルールを教えていただきました。3秒で第一印象、3分で人となりが審査され、ここを勝ち抜くと初めて30分の予選に進めるというものです。いくらプロとしての知識があっても最初の予選で落ちてしまうとその先に進めない、なので表情、声の調子はとても大事というものです。

2冊目の「わたしのすきなもの」は、女の子が好きな物をあげていくお話です。

「この女の子の印象、99％の人がプラスの印象、好きと言います。好きなものを話している時の人の顔は笑顔になり、声の調子は明るく楽しそうになります。ではみなさんも好きなものを書き出してみましょう。」周囲の方同志で自己紹介と好きな物を言い合っていきました。

「すいぶんお顔がかわりましたね。にこやかになりました。これなら3秒を勝ち残れると思います」

そして次の本、「ぐるんぱのようちえん」、「りんごがたべたいねずみくん」。

「ぐるんぱのようちえん」で岡田先生はキャリアアップのお話として研修に取り入れる予定でしたが、いざ研修をしてみると人によって見方が全然違う、人それぞれ置かれている立場によっての価値観の違い、その時の様々なエピソードもお話してくださいました。実際今回グループで発表会をしてみても感想は多種多様。人生経験も違えば社会情勢も違う。だから話が合わなくて当たり前、しかしみんなが自分と同じ考えだと無意識のうちに思いがちなので、コミュニケーションがうまくいかない、と岡田先生。そして次は厄介な怒りの感情の処理の仕方、なぜ腹が立つのか「いかりのギョーザ」「どんなかんじかなあ」です。岡田先生から、怒らなくて済むにはどうしたら良いか、ご自身の体験談を交えてお話しをしていただきました。「相手がなぜそんな言動行動をしたのか、相手の背景を想像をしてみましょう。ポイントは正解を求めようとしない、自分が納得できる理由を勝手に想像して作っちゃえば腹もたたないんじゃないでしょうか。」

参加型の絵本セラピーでは参加者のみなさんで和気藹々と行いました。

次の絵本「おこだでませんように」良い事と思ってやっていたのに誤解で怒られてしまうお話です。周りの人も何も怒らせようとしているわけではないんじゃないか、どんなことを言ってほしいのか、を踏まえて二人組で、言われて嬉しい言葉を言い合うゲームをしました。ポイントは言われる側は褒め言葉を否定せず、受け取る。

「これをやると熱くなります。血管が開いて血流がよくなり体温・免疫力が上がります。本気じゃなくても言われると言葉に体が反応する。逆のことを言われると実際血管がしまって体に悪いです。だから言葉ってとっても大事なんです。」

最後の本「ええところ」で幕をとじました。

「身近な人とどんな人間関係をつくりたいでしょうか。

責め合うような関係なのか、良いところを見つけ合う関係なのか。そんなところを考えていただければ嬉しいです。」

❖

第三講
荻野文子氏

「7：3の法則 業界が変わるとき」

荻野文子氏 プロフィール

ヒューマンキャンパス・代々木ゼミナールを経て、89年より東進ハイスクール講師となり、締め切り講座を続出させ、受講生に「予備校界のマドンナ」と呼ばれてカリスマ的人気を博す。主な著書に「ヘタな人生論より徒然草」「ヘタな人生論より枕草子」（河出書房新社）「マドンナ先生古典を語る」（学研M文庫）「100分de名著ブックス 兼好法師　徒然草」（NHK出版）など。

荻野先生には今日のテーマに沿ったお話で、又我々の業界に必要なお話もしてくださいました。

まだ予備校がバブル期だった時代、当時最大手の代々木ゼミナール大阪校で講師をされていた荻野先生は生の授業で朝9

時から夜9時まで一週間に6600人もの生徒を教えていたそうです。終身雇用じゃない、契約書もなく失敗した時点で終わり、当時はへたな授業をしたら生徒達が大乱闘を起こしたり、即くびをきられたり過酷な舞台に立っていたそうですが活気ある時代でもあったようです。

少子化により不安がよぎり大きな変革を余儀なくされた予備校業界で、全部映像の授業にしようと提案された荻野先生。今でこそ衛星放送の時代ですが、この時代は三者（予備校でいうと、買い手＝生徒・保護者、売り手＝職員・経営者、作り手＝講師）から猛反対を受けたそうです。

「作り手と、売り手と、買い手との三方良し、そうなれば一番ですが、わたしは三方すべてに10点満点の理想的な幻を見るのはやめようと考えました。0になるぐらいなら、という発想でいないと、今のものを全部守ろうとしたら何も変えられません。そこで今日タイトルにもしました、皆3割づつ我慢する、7：3の法則です。業界として絶対に譲っちゃいけない事を真ん中に置く。予備校ではそれは質の高い授業ですが、そこは譲らずに3割ずつ我慢。誰かが偏って0になるよりは、業界全体が0に萎んでしまうよりは、良いんじゃないか。この3割の我慢は業界への投資。あとは努力と定着によって、またいつかそれが還元され、皆10割に戻れるという考え方です。」

映像にすることによる生徒、先生双方のメリット、さらには映像化した後の映像の流し方、熱意ある授業をそのまま見せるためのカメラワークのやり方などもお話してくださり、予備校業界と交えて仏壇仏具のお話もしてくださいました。

「業界として絶対譲れないもの、たとえば私は買い手の一人としてお仏壇に何を求めているかというと、死者を弔う、霊を慰めるのはもちろんですが、仏壇の前で死んだ母と父と話すことなんです。多分仏壇がなくても3年間位は日常生活の心の中で親と会話をしていますが、やはり人はだんだん現実の生活に戻っていきます。でも仏壇の前にいけば絶対父と母の事を考えますよね。

そうして親と話をしていると自分の心が整うんですね。こんな激しい競争社会にいますので、負の感情が起きるときもありますが、父親と母親と仏壇の前で話しているとそういう感情が浄化されていきます。私にとって仏壇というものは生きている者、残された者の為の心の扉、亡くなった人と話せるツールです。現代社会でばたばたしていると、この型やしきたりが失われることを一番不安に思います。

『山猫』っていう小説に「変わらず生き残るために変わらなければならない」という有名な台詞があるんですが、生き残ろうとしたら変わらなきゃ仕方がない。つまり予備校なら、質の高い授業を変えない為に自分が、講師が、経営者が変わる。守るものと変えるものとのバランス、それが7対3。今回は私が業界が変わったときにどんな心持ちでいたかをお伝えしたくてお話させていただきました。」最後に質問コーナーを設けてこの講演を終了しました。

❖

第四講

釈徹宗氏・イシトヤチグサ氏　対談

『生活様式がもつ力』

釈徹宗氏 プロフィール

龍谷大学大学院博士課程、大阪府立大学大学院博士課程修了。学術博士。浄土真宗本願寺派 如来寺第19世住職、相愛大学人文学部教授。『いきなりはじめる仏教生活（バジリコ）』『仏教ではこう考える（学研新書）』『いきなりはじめる浄土真宗―インターネット持仏堂1』『はじめたばかりの浄土真宗―インターネット持仏堂2』（内田樹氏との共著、本願寺出版社）など、著書多数。

イシトヤチグサ氏 プロフィール

タレント。MC、エッセイ、コラム、詩、デザイン、歌、作詞・作曲、弾き語り、芝居などをこなす。死生観と墓と神社仏閣に興味があり、その方面にも造詣が深い謎の少女。

〈釈徹宗氏とイシトヤチグサ氏の対談〉

ご自身の経験を交え、家の中に理屈に合わないものがある生活はどこかが違うものがある、と話される釈先生。床の間が無くても、お仏壇も無くても暮らすことは出来

るが、あると何か気になるもの。床の間があれば、そこに荷物を積み上げるのには抵抗があり、お仏壇があったら、そこに足を向けて寝たりしない。理屈に合わないものでも、それが「ある生活」と「ない生活」は違う。理屈に合うものは頭の栄養となるが、理屈に合わないものは体の栄養となる。これは大事な事で、その体の賢さみたいなものを現代社会は見落としがちである。便利な場所で暮らすことによって落ちる体の知性、生きる力に直結している体の賢さを家の中にある不合理なもので補ってくれている。ということをお話してくださいました。そして、お父様と妹様が他界されたことにより死生感に興味を持ち始めたイシトヤ先生。葬儀の際のご親族のお話や、妹様のご遺骨を手放されなかったお母様のお話、葬儀や仏壇は誰の為のものなのか、葬儀や供養の在り方は何が正しいのか、今もなお考えているということをお話されました。

釈先生は、これについては正解があるわけではなく、お葬式は人類が成立した時からずっと行なわれていた事。人間だけが死という概念を持っていること、人間だけが埋葬をして供養をすること、人間はその状態が大きくかわる時に儀式(成人式・結婚式・葬式の3大通過儀礼)をすることなど、ご説明いただきました。葬儀は亡くなった人のため、残された人のため、亡くなった人も含めて家族の為に行なうという事など様々な角度からお二人でお話されました。

イシトヤ先生が先日参列された無宗教葬のお話で、儀式が持つ力についての考えを述べられたのに対し、釈先生は、どうしようもない悲しみの時に儀式の形がもつ力がある。最愛の人を亡くして言葉も届かない、何をしたら良いかがわからない時、決められた儀式スケジュールがあると、それを淡々とこなすことによって前に進んで行ける。納得できない苦しみに直面した時、その苦しみをどうやって受け入れて生きていくかは人類の大きなテーマと言えるが、その時に儀式が持つ力が役立つのでは…とお答えいただきました。

仏像のお話では、お二人がそれぞれ行かれた神聖な場所での体験、経験談を話されました。仏像は何ものにもとらわれず、快にも不快にも支配されていない顔をしており、人類の一つの到達点である。だから仏像のお顔を見ていると安心する。仏像の前では無防備な自分でいられるから落着くことができる。その「場」を感じると云うようなことが日本の宗教の一つの在り方ではないかと釈先生は話されました。

❖

第五講

仏壇公正競争規約について

理事長　小堀 賢一　　（仏壇公正取引協議会 会長）

仏壇公正競争規約についての説明会を全国各地で開催させていただいて、今回で4回目になります。

この規約成立に到った経過を簡単にご説明させていただきます。

仏壇公正取引協議会のHPの中にも掲載していますのでご参照ください。

簡単にお話ししますと、消費者の方々からの沢山のクレームが経済産業省に集約され、業界で改善に取り組みなさいと、一昨年の6月に書面を頂きました。それと、業界の一部に不正が行なわれているということに対して、業界の中からも改善に向けて取り組まなければいけないというお力添えを頂きました。今年の4月にこの規約が成立し、5月に公正取引協議会が設立されました。すでに協議会が設立されて4ヶ月ほど経ったわけですが、この間に報告すべきことがございます。

この協議会の中には総務委員会、広報委員会、規約委員会、調査委員会と4つの委員会がありますが、消費者庁から協議会に対して調査依頼があり、調査委員会で調査を進めました。これは2件あったのですが2件とも二重価格表示に関しての事で、こちらは調べましたが最終的には消費者庁から協議会からの報告をもって、終了、解決したとみなすとお返事をいただいております。二重価格表示という事自体が違法と思われるかもしれませんが、参考価格を消費者にお知らせするということは消費者に対する情報提供なのでこの段階では違法ではありません。不当な、という言葉がついたときに初めて違法になります。

更にもう1件は仏壇公正取引協議会の会員から他の会員に対して広告がおかしいという意見がありました。それはちょっとした文言の間違いでしたのでそちらは修正をしていただいています。以上がこれまでの経緯とご報告です。

来年の4月27日に仏壇公正競争規約が全面施行になりますので、それまでに準備をすすめなければなりません。

また、原産国に関してや漆の配合に関して等々、これらは半年位かけて詳しい運用要領を今後検討していきますので、みなさんにも規約委員会からご意見を求める事になるかもしれませんが、その場合はぜひご協力をいただければと思います。

第六講

ニューリーダー部によるディベート
論題「これからの日本に伝統型の仏壇は不要である。」

ディベートとは、ある論題に対してそれを肯定する側、否定する側に分かれ、一定のルールに従って行われる討論のことです。単なるディスカッションではなく、議論を戦わせることによって真理を追求し、問題解決の為の意思決定を導く一助とします。

今回の論題は「これからの日本に、伝統型の仏壇は不要である。」といういささかショッキングなものでした。決して肯定側のメンバーが、これからの日本に伝統型の仏壇は不要であると考えているという訳ではなく、二つの相反する意見の衝突を通じ真理を探究することがディベートの目的であり、今後の仏壇の在り方を参加者全員に考えていただく為、あえてこの論題を取り上げたものです。

一般的な教育ディベートでは、どちらの側が理論的に勝っていたか最後にジャッジが下されますが、この日は非公式なものなのでジャッジは行わず、以下のような進行方法で行われました。

【立論・尋問】
肯定側立論（5分）
否定側による尋問（3分）
否定側立論（5分）
肯定側による尋問（3分）
【反駁】
否定側反駁（3分）
肯定側反駁（3分）

今回初の試みとなるディベートです

コイントスで肯定側か否定側かを決め、タイムキーパーも務める吉田総務委員長の司会のもとディベートが始まりました。

まず肯定側は、伝統とはその精神的在り方こそが問題であり、精神的在り方が変わらなければ、その形状はむしろ時代に応じて変化すべきであるという考えを述べ、住宅環境の変化に対応した仏壇の必要性、消費者はより安価なお仏壇を求めている事実、「家」の概念の変化がもたらす仏壇の意義の変化という三つの論点から、仏壇の形状は変わるべきであると論じました。仏壇を祀ることによって得られる「先祖を大切にする心」「感謝する心」「ものを敬う心」等を持つことが日本の伝統であり、そのような心を残す為には、住宅環境、価格、意義という観点から、消費者のニーズに合った仏壇を製作、販売しなければならないと主張しました。

否定側はこの立論を受け様々な質問をし、その後三つの論点について反論していきます。確かに住宅環境は大きく変化しているが、伝統的な型の仏壇を祀るからこそ、肯定側の言う「日本人の心」を伝統として残していくことが出来るのではないか。消費者は安価なものを求めているというが、日本のような成熟経済に於いては、本当に価値のあるものは価格に関係せずに求めるものではないか。現代人は自分のアイデンティティーを持つことを求めており、仏壇を持つことにより自分の「家」を感じることはアイデンティティーを高めることにも繋がる、といった反論です。

否定側による尋問

そして、伝統的な仏壇の形を守りながら、その価値を高め、その意義を消費者に伝えていくことこそが重要であり　新しくするべきはその形ではなく、品質の向上と、マーケティングであると主張しました。

肯定側の尋問の後、否定側は、伝統型の仏壇を切り捨てるということは高付加価値の商品を切り捨てるということに繋がり、業界の未来にとって望ましいものではないとも論じました。

最後に肯定側は、「最も強い者が生き残るのではなく、最も賢い者が生き延びるでもない。唯一生き残るのは変化できる者である」とチャールズ・ダーウィンの言葉を紹介し、商品も「変化することのできる商品」のみが生き残るのであり、その為には早急に伝統型仏壇の製造・販売から新型仏壇の製造・販売にシフトしなければならないと主張しました。

今回のディベートでは審判によるジャッジは行われませんでしたが、皆さんはどちらの理論が勝っていたと思われますか。

肯定側による尋問

〈比叡山研修　ニューリーダー部〉

比叡山延暦寺 1泊研修会

●**開催日時**：平成24年9月4日(火)～5日(水)
●**開催場所**：比叡山延暦寺内　延暦寺会館　滋賀県大津市
●**目　　的**：比叡山という地において仏教精神に基づく研修プログラムに参加し、各自の研鑽を積む。
部員以外にも広く参加者を募り、新たな部員獲得を目指す。
部員間の親睦を深める。

行　程

9月4日(火)

11:45	JR京都駅集合
13:45	到着 延暦寺会館へ
14:00	三塔巡拝 (山歩き)
18:00	夕食 食事作法
19:00	法話
20:30	車座座談会
22:00	就寝

9月5日(水)

5:00	起床
5:15	座禅
6:30	朝のお勤め
7:00	作務(清掃)
7:30	朝食
8:00	写経
9:30	法話
10:30	根本中堂 (企業繁栄祈願)
11:30	比叡山出発
13:00	京都駅到着 解散

参加者

山田 宗宏	㈲温古堂	牧　達也	㈱保志
伊藤　匠	㈱永楽堂	石川 拓也	㈱サンメニー
可児 錠二	トモエ陶業㈱	奥津　真	㈱JA東京中央セレモニーセンター
神戸 伸彰	㈱神戸珠数店	水島　亮	㈱JA東京中央セレモニーセンター
木本　結	㈱木本佛具店	中谷 祐規	㈱いわさき
三枝 剛央	㈲三枝堂本店	今田 勝海	㈱森正
滝田 哲也	㈱滝田商店	市橋 孝昌	㈱森正
廣川 俊輔	㈲廣川仏壇店	中造 真一郎	㈱玉初堂
前田 平八	日本宗教用具㈱ 日本堂總卸店	二位関 沙織	㈱保志
		村上 麻希子	㈱吉田治市商店
安田 元慶	㈱安田松慶堂	西春 俊史	㈱浜田商店

9月初めのまだまだ暑い時期でしたが、暑さを感じるのを忘れてしまう程、緊張感を持って研修に挑みました。

三塔巡拝では、比叡山の山の中をひたすら黙々と歩き、道案内役のご住職の後を必死でついていきました。

このご住職が研修全てに就いてくださったのですが、とても厳格な方で、何事も10分前行動、迅速に動く、無駄話をしない、など、我々も機敏に研修を行ないました。食事の時も気を緩める事はせず、談笑などはしません。

基本的な事なのですが、食べ物が入っている器をその都度手に持って食べ、食べた後器を降ろす、残さず全て食べる（色彩りで添えてある葉もの、揚げ物に添えられた塩、醤油までも全て。）等、意識しながら頂いていると、普段の食事では出来ていないな、と反省しました。夜には、普段の仕事の話もしつつ、来春より始まる「公正競争規約」について詳しい方から説明を伺ったり和気藹々と座談会を行ない、親睦を深めました。

2日目。早朝に起床し、根本中堂で座禅と朝のお勤めに参加。作務（清掃）、般若心経の写経（お経を唱和し、炭を摺り、毛筆で書きました。）、根本中堂での、参加者各位の企業繁栄祈願（護摩を焚かれるところを合わせて見学させて頂く。）をさせて頂きました。1泊2日でしたが、充実した研修会になりました。

参加メンバー同士、初対面の者も多かったですがすぐに打解け、親交を深めることも出来、2日間無事に研修が済んだ事を安堵しております。

指導に当たってくださったご住職のもと、緊張感を持って研修に挑んだことにより参加者各自が、日常生活においても、社会生活においても、感謝の気持ち、素直さ、厳格さを持つ事の大切さを学べた事と思います。

NL部では研修会等オブザーバー参加をお待ちしております。またこのような機会があった際には、組合員の方、従業員の方、是非ご参加ください。

全国研修会特集

幕末維新ミュージアム 霊山歴史館見学

全国ではじめて幕末・明治維新期の歴史を総合的にとらえて研究する専門博物館として昭和45年(1970)に京都に開館した霊山歴史館。学芸課長の木村幸比古氏に案内をしていただき、研修会参加者で見学をしました。

霊山歴史館では、幕末の京都で活躍した志士、大名、天皇、公家のほか文人、画家などの遺墨や遺品、書状、各種資料・文献などを収集、調査、研究し、公開展示を行っています。

懇親会

今年の４月に実施した第２回東日本大震災人材支援ボランティアの際、宮城県石巻市「西光寺」でご一緒させていただいたバンド“アベニュー”の皆さんに特別出演していただきました。

ボランティアの様子を映像で映しながら、心にしみる歌を聞かせていただきました。

おめでとうございます

平成24年度仏事コーディネーター試験合格者一覧

■東京会場合格者(57名)

秋元 珠未 ㈱保志
秋山 恵子 ㈱太田屋
安藤 美穂 ㈱一休さん大黒堂
飯島 久美子 ㈱太田屋
五十嵐 龍哉 ㈱保志
井口 岳志 ㈱太田屋
板橋 知宏 ㈱セレモニー宝典
伊藤 寿行 ㈱一休さん大黒堂
伊皆 康彦 ㈱日本の心
臼井 好明 ㈱メモリアルアートの大野屋
内海 紗知 ㈱保志
大友 伸太郎 ㈱吉運堂
沖津 知一 ㈱日本の心
小野 義人 ㈱金宝堂
加藤 佑人 ㈱金宝堂
金井 誠一 ㈱太田屋
金田 尚 ㈱太田屋
河元 浩一 ㈱太田屋
木村 裕子 ㈱亀井しずお仏具店
雲尾 天司 ㈱福宝
小口 真由美 ㈱セレモニー宝典
後藤 淳 ㈱日本の心
後藤 幸男 町田日本堂總卸店 日本宗教用具㈱
小山 あきみ ㈱太田屋
佐藤 一正 ㈱吉運堂
佐藤 慎一 ㈱会津屋
佐藤 利勝 ㈱太田屋
佐藤 洋一 ㈱福宝
篠崎 修 ㈱鈴文
関口 将一郎 ㈱若林佛具製作所
関根 唯加 ㈱福宝
五月女 敦夫 (有)稲澤佛具店
髙木 聰次 ㈱太田屋
髙橋 貴幸 ㈱メモリアルアートの大野屋
田山 俊夫 ㈱鈴文
常松 猛 ㈱福宝
戸田 紘昭 ㈱金宝堂
戸村 公彦 ㈱メモリアルアートの大野屋
西春 俊史 ㈱浜田商店
根本 貴 ㈱福宝
萩原 雄一郎 ㈱メモリアルアートの大野屋
早野 伸哉 ㈱若林佛具製作所
原島 章 ㈱JA東京中央セレモニーセンター
藤澤 正教 ㈱吉運堂
細江 俊作 森正㈱
本多 泰隆 ㈱門井佛具店
牧田 哲明 ㈱太田屋
増澤 岳海 ㈱太田屋
松井 一馬 ㈱吉運堂
水島 克弥 ㈱一休さん大黒堂
溝呂木 孝 ㈱太田屋
光安 亜紀 ㈱メモリアルアートの大野屋
宮 若葉 ㈱福宝
安川 利治 町田日本堂總卸店 日本宗教用具㈱
吉岡 峰子 ㈱若林佛具製作所
吉川 隆廣 ㈱金宝堂
渡辺 稔美 ㈱保志

■大阪会場合格者(33名)

石田 稔樹 ㈱仙台屋
石山 裕晃 ㈱中原三法堂
馬屋原 治 ㈱中原三法堂
岡 順子 ㈱中原三法堂
岡崎 義明 ㈱永田屋
川辺 一寛 ㈱若林佛具製作所
木崎 千春 ㈱仙台屋
木村 昌和 ㈱中原三法堂
黒澤 あゆみ ㈱小堀
黒田 雅巳 ㈱中原三法堂
小橋 永幸 ㈱大越仏壇
小山 泰利 ㈱小堀
澤山 貴美子 ㈱中原三法堂
白川 奈穂子 ㈱若林佛具製作所
鈴木 峻平 ㈱中埜
常盤 和也 昭和堂佛具店
常盤 眞人 昭和堂佛具店
徳田 敬介 ㈱中原三法堂
冨松 功史郎 ㈱ぶつだんのもり
友杉 順一 ㈱中原三法堂
長江 千里 ㈱中原三法堂
贄田 芳郎 ㈱中原三法堂
野田 加代 ㈱中原三法堂
東本 泰和 ㈱池田大仏堂
平本 学 ㈱大越仏壇
福山 直樹 ㈱中原三法堂
細川 三智子 森正㈱
松永 豊 ㈱宇部氏間仏閣堂
三木 里美 ㈱中原三法堂
山本 愛 ㈱ごもりコーポレーション
吉田 早百合 ㈱中原三法堂
和田 貴至 浜屋㈱
渡邊 啓司 ㈱保志

事務局からのお知らせ

1. 当面のスケジュール

平成25年2月25日(月) 役員会 全国研修会(東京日暮里ホテルラングウッド)
平成25年4月27日(土) 仏壇公正競争規約 全面施行
平成25年5月21日(火) 定時総会(京都)

2. 組合員数 平成24年12月15日現在 372名

新規加入者 平成24年3月13日以降

(株)にしの　西野　孝　様(3月19日)
(株)森田石材店　森田　茂樹様(7月2日)
(株)岩田宝来屋　岩田　和義様(7月23日)
昭和堂仏具店　常盤　和也様(8月24日)
法月(株)　法月　元春様(11月7日)
(株)伊藤仏壇　伊藤　晃　様(11月8日)

3. 組合関係者の訃報(平成24年6月9日～24年11月6日)

〈東海地区〉
(株)佛庄総本店(川喜田保様)会長　8月27日 85歳
〈四国地区〉
(株)フジモト(藤本英夫様)　会長　10月4日 86歳
〈関東地区〉
五雲堂(羽吹公延様)　社長　11月6日 73歳

仏壇公正取引協議会がホームページを開設いたしました。

全宗協のホームページとリンクしております。

仏壇公正取引協議会　検索　★検索してご覧いただけます！